



平成15年11月26日
日本原子力発電株式会社

敦賀発電所2号機の定常運転再開について（第13回定期検査）

当社、敦賀発電所2号機（加圧水型軽水炉：定格電気出力116万キロワット）は、平成15年9月5日から第13回定期検査を実施し、10月29日より定期検査の最終段階である調整運転に入っておりましたが、本日、経済産業省の最終検査を受けて定常運転を再開致しました。

以 上

参考資料 敦賀発電所2号機 A非常用ディーゼル発電機の待機除外について

敦賀発電所 2 号機 A 非常用ディーゼル発電機の待機除外について

○事象概要

敦賀発電所 2 号機は、定格熱出力一定運転で第 13 回定期検査の調整運転中のところ、11 月 19 日 23 時 06 分、「安全系 480V 母線地絡^{*1}」と「安全系 480V フィーダ地絡」警報が発報しました。

調査の結果、安全系 480V 母線に接続されている A 非常用ディーゼル発電機潤滑油プライミングポンプ^{*2}の電動機で地絡が発生していることを確認しました。

潤滑油系統の圧力指示（プライミングポンプ出口圧力：約 0.34 MPa）は、安定しており、潤滑油系統の機能は維持されていましたが、11 月 20 日 10 時 29 分、A 非常用ディーゼル発電機を待機除外とし、当該電動機を新品と交換した後、ポンプの運転状態に異常がないことを確認しました。

その後、A 非常用ディーゼル発電機の起動試験を実施し、同日 21 時 38 分、待機状態に復帰しました

当該電動機が地絡した原因については、経年的な劣化により絶縁効力が失われたためと推定していますが、確認のため、現在、工場において当該電動機の分解点検を実施しています。

なお、本事象による環境への放射能の影響はありません。

* 1 : 地 絡

電線や電気機器の絶縁が、損傷あるいは劣化して絶縁効力が失われ、本来の電気回路以外の部分に電流が流れる事象。（「安全系 480V 母線地絡」や「安全系 480V フィーダ地絡」の警報は、回路に流れる電流の変化を感知し発報する。）

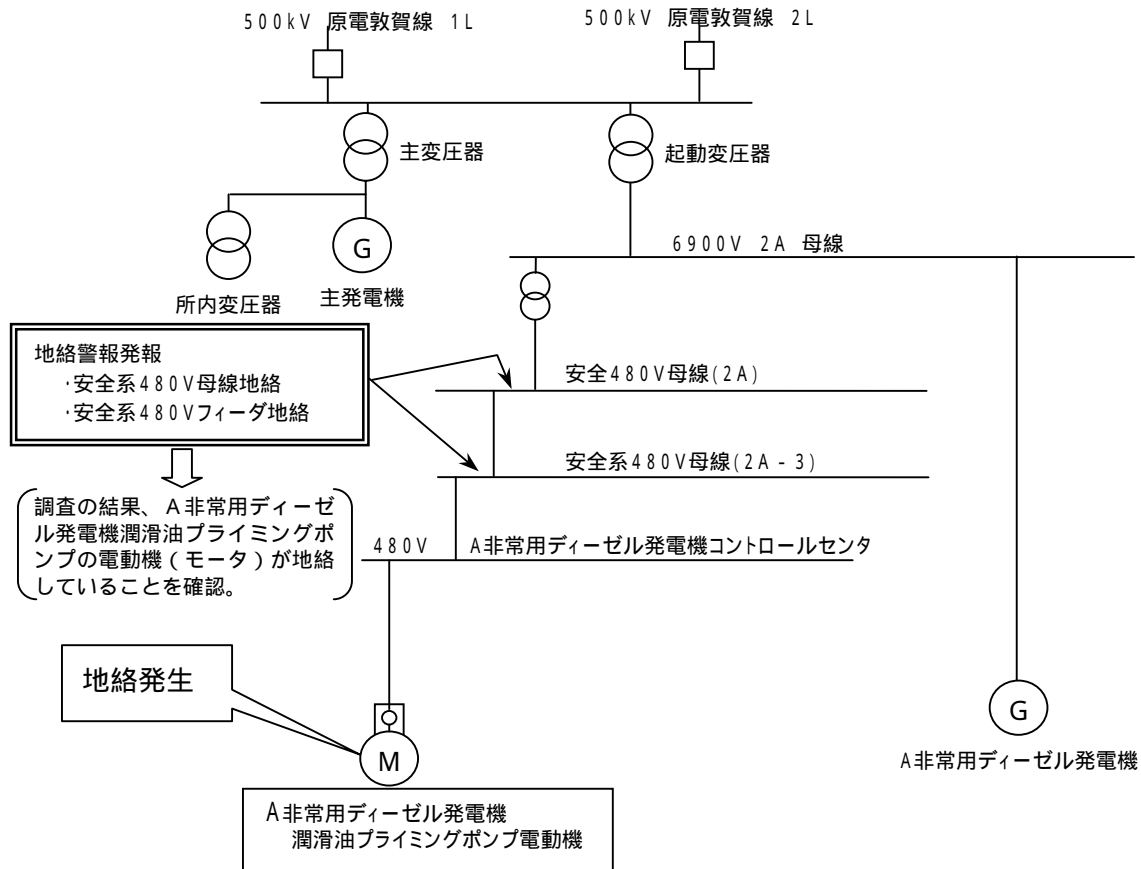
* 2 : 潤 滑 油 プ ラ イ ミ ン グ ポ ン プ

潤滑油プライミングポンプは、非常用ディーゼル発電機が待機状態の時に、ディーゼル機関に潤滑油を供給するため、潤滑油を循環させる役割をもつ。（ディーゼル機関が運転中は機関直結の潤滑油ポンプにより潤滑油が供給される。）

A 非常用ディーゼル発電機の待機除外について

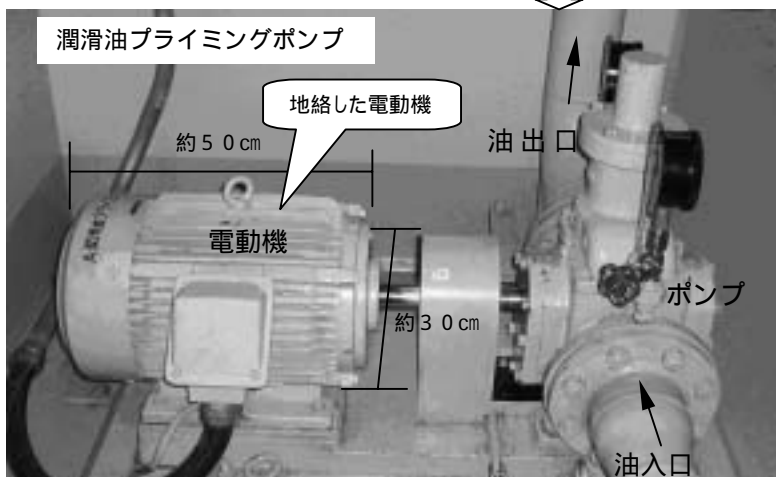
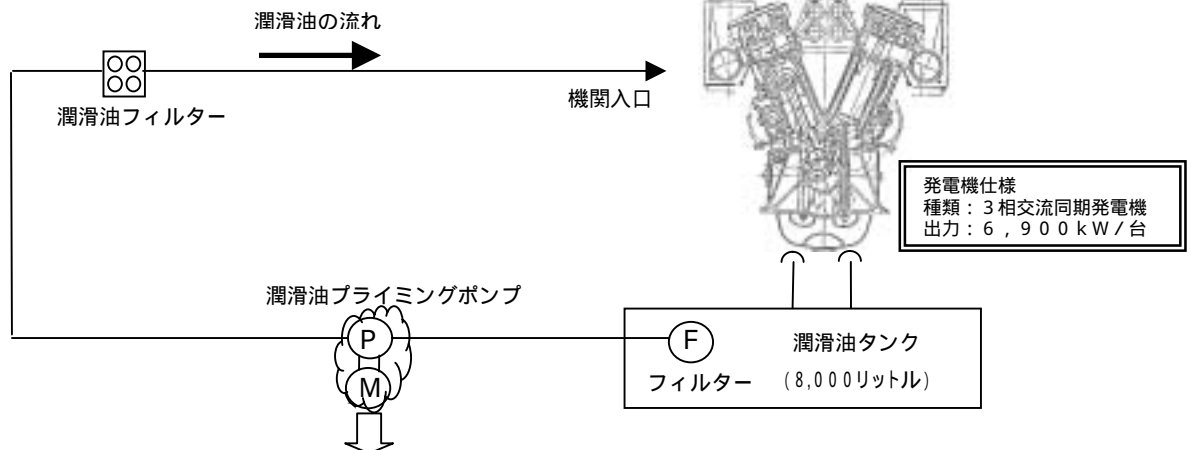
(A 非常用ディーゼル発電機潤滑油プライミングポンプ電動機の地絡事象)

A 非常用ディーゼル発電機潤滑油プライミングポンプ電動機の単線結線図



A 非常用ディーゼル発電機潤滑油系統概要図（待機状態）

非常用ディーゼル機関構造図



○ 潤滑油プライミングポンプは、非常用ディーゼル発電機が待機状態の時に、ディーゼル機関に潤滑油を供給するため、潤滑油を循環させる役割をもつ。（ディーゼル機関が運転中は機関直結の潤滑油ポンプにより潤滑油が供給される）

電動機仕様

- 電圧：440V
- 容量：15kW
- 電流：24.5A